

令和6年9月30日現在	前月比
世帯数.....2,771戸	(+15)
男 性.....3,624人	(+6)
女 性.....3,830人	(+2)
合 計.....7,454人	(+8)

発行／莊原コミュニティセンター
 出雲市斐川町庄原3835 (電話)72-4600 (FAX)72-4602

No.218
 2024.11.20

つながる莊原 笑顔の未来
 活かそう 人を 歴史を 資源を

9/19
 (木)

10周年を迎えた さつまいも掘り 自主企画事業

こども倶楽部

春に植えたさつまいもが収穫の日を迎えました。秋のさつまいも掘り……と言うには暑い夏のような日でしたが、こどもたちも汗をかきかき、頑張りました。

みなさんが収穫したさつまいもは、10月12日・13日で開催された莊原地区文化祭の「こども倶楽部の焼きいも屋さん」で地域の方々に届けられました。毎年大好評の焼きいもは今年もあっという間に完売しました。

折しも今年は「こども倶楽部」による焼きいも販売は10周年を迎えます。この10年で、関わったこどもたちは、600人超になるでしょうか。さつまいも掘りの楽しさ、自分で収穫したさつまいもの甘さ、そんな思い出がこどもたちの心の中に少しでも残っているといいなと願う「こども倶楽部」でした。

楽しかったね♪

出てきた
 出てきた♪

いっぱい掘ったぞー！

大きな
 おいも！

荘原地区 文化祭

文化祭がはじまるよ～!



荘原地区文化祭のお礼

さわやかな秋晴れのもとで開催された今年の文化祭のオープニングセレモニーでは、「ViVi Dance Kids(ヴィヴィダンスキッズ)」と「子ども盆おどり教室」のみなさんに元気いっぱいの踊りを披露していただき、文化祭の開始を大いに盛り上げていただきました。

地元のお店の出店、「喫茶やまももの会」のオープンカフェ、陶芸クラブの販売・体験教室、「こども倶楽部」の焼きいも屋さんなどにはたくさんのお客で大盛況でした。

館内の展示は、荘原地区の保育園児、幼稚園児、小学生、中学生そして各サークルのみなさんが丹精込め一生懸命に作り上げた作品が展示されており、小さな子どもさんを連れた若いお父さんお母さんのご家族をはじめ、たくさんの方々にご観覧いただき、和やかな落ち着いた雰囲気文化祭でした。

今年は二日間と昨年とほぼ同じ1200人以上の皆様にご来場いただき文化祭を盛り上げていただきました。ありがとうございました。

コミセンの各教室、サークルの皆さん、各専門部の皆さん、自治協会の皆さんには数日前から、掃除、物品の移動、パネルやテントの設置などの会場準備や、展示、そして当日の運営に大変ご協力いただき素晴らしい文化祭にさせていただきました。厚くお礼申し上げます。

来年もより素晴らしい文化祭になりますよう、今後とも皆様のご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

荘原地区文化祭実行委員長 渡部 誠治

10/9
(水)

荘原コミセン大掃除

荘原コミセンの教室・サークルのみなさんが文化祭前の大掃除をしてくださいました。

普段はなかなか手が行き届かないところまで丁寧に掃除をしていただき、皆さんのおかげで、きれいで気持ちよくなったコミセンで文化祭を開催することができました。大掃除に参加していただきました皆さん、大変ありがとうございました。



荘原コミュニティセンターで活動しておられる、「エコフレンドリー倶楽部」と「ジャズミン」の皆さんが文化祭で販売された収益金は、能登半島大雨災害義援金として日本赤十字社松江支部に全額寄付されました。



9/28
(土)

タウンミーティング 「光る荘原へ」開催!

自主企画事業

～持続可能な私たちの荘原でありたいと考える住民が集結～



「光る荘原へ～どうする荘原 次の一手!」と題して、昨年に続くタウンミーティングを行いました。「光る荘原地区」でありたい、持続可能な私たちの荘原でありたいと考える皆さんが集まりました。

今年も意見がたくさん出ました。お金の面では、次の世代が納得できる負担でなくてはならないこと。自治会共同で行う作業は民間事業者委託など税金も投入すべきであること。そして会社や得意分野で経験を積んだ人に貢献を求めたいし、また外から入って来た人こそ荘原の良さがよくわかるので荘原の良さを発信するため仕掛けてゆく力になるとも。

私たちのかつての行動原理は「みなさん御一緒に!」でした。誰もがやることは自分もするのが当たり前という同調圧力です。今は地縁や血縁、職場といったつながりが薄れ、他人と接点を持ちたくない、自分の思うままに生きることが当然とされるようになりました。かつての行動原理が古くなった今、新しい原理がなければ自治会をはじめとして社会は崩壊するかもしれません。おそらくそれは「情けは人のためならず」の言葉につながると思うのです。「情けは



まちづくり部

人のためならずは、人のために動いて心を砕くことによって、巡り巡って我が身を助け、自身の人格を磨くという意味です。ここにいる私たちが、行動を起こして風を起こしていきましょう。そんなふうにまとめて終えました。

また来年もやりたいと要望が出ました。やりましょう、声を届けていきましょう。熱を呼び覚ましていけば世間の風は変わると信じます。

荘原コミセンまちづくり部 原 史行





10/30
(水)

教育講演会 自主企画事業 総務部 「たのしい出雲弁」

講師 藤岡大拙 先生



藤岡大拙先生の穏やかでなめらかな口調で話される「出雲弁」。最初から最後まで笑い声の絶えない、まさに「楽しい」講演会でした。

先生は先ず「出雲弁」はよく「ずうずう弁」と言われるが、これは東北地方の方言をさすものであり、「出雲弁」とは一線を画していること、そして「出雲弁」はとても難しい発音で、よそから来た人はなかなか発音ができないし聞き取りも難しい言葉で、話をすると出雲の人が他所からの人かすぐに分かるということを指摘されました。古代の昔から出雲の人々は、「出雲弁」を駆使し独自のコミュニケーションを確立して外敵から出雲の地を守り続け、20世紀の半ばごろまで綿々と受け継がれてきたが、今ではメディアの発達などにより標準語が根付き、「出雲弁」を話し、分かる人が少なくなったということも話されました。

古代の出雲の人々は、この「出雲弁」に矜持をもって後世に引き継いできました。私たちもそれに倣い、古代の人々が願っていたように、子々孫々が平和に暮らせるよう祈りを込めて、後世に語り継いで守っていきたいと思いました。



1班 9/10 (火)
2班 9/19 (木)
3班 9/27 (金)

ふれあいサロン
おいでませの会

誰もが幸せに暮らすために…

「おいでませの会」では今年度も人権・同和教育研修を行いました。
出雲市人権同和政策課の同和教育啓発指導員のみなさんにきていただき、DVD「親愛なるあなたへ」を視聴したあと、DVDの内容に沿って高齢者の人権問題、子育ての問題、さまざまな人権問題などについて振り返りながら話をさせていただきました。
「安心な居場所づくり」が地域コミュニティの活性化につながることを、また、地域住民一人ひとりが、社会の様々な問題に関心を持ち、一歩踏み出すことが大切だと学びました。
誰かから親切や善意を受けたら、それをその相手に返すのではなく、自分が返せるときに他の誰かに返していく「恩送り」の想いを大切に生きていきたいと思いました。



1班 10/8 (火)
2班 10/17 (木)
3班 10/25 (金)

笑顔のあふれる楽しい交流になりました!



毎年、かわいい園児さんとの交流を行っています。
今年も荘原幼稚園・東部保育園・荘原保育園の園児さんと交流しました。
よさこい踊り、竹太鼓、季節の歌、ダンス、肩たたき、じゃんけん、竹馬、側転などそれぞれの園で考えられた交流で楽しい時間を過ごしました。子どもたちの元気いっぱいのパフォーマンスに目を細め



る姿があちこちで見られました。感激のあまり涙ぐむ方もいらっしゃいました。
今年も子どもたちから元気なパワーをたくさんもらい、子どもたちに健やかに育って欲しいと願う気持ちを伝えられた交流となりました。



9/13 (金)

災対 & 専門部研修 専門部研修報告



9月13日(金)に、在原地区災害対策委員会研修と専門部研修を兼ねた研修会を実施しました。
出雲駐屯地は、鳥根県唯一の陸上自衛隊駐屯地です。

隊員さんが出雲駐屯地の概要や活動の説明をしてくださいました。その後、館内案内、喫食体験、資料館の案内と説明をしてくださいました。不法行為の対処、国際平和協力活動、大規模災害の対処など、多様な方面での役割を担い、活動しておられました。この日は大部隊が県外に訓練に出かけておられ、訓練の様子を見学することはできませんでしたが、私たちの安全で安心な生活を守るため、日々研鑽し、たゆまぬ努力を重ねてくださることに敬意を表さずにはいませんでした。

お忙しい中、隊員の皆さんに対応いただきましてありがとうございます。ありがとうございました。



10/17 (木)

しょう ばう
Showバラの会

挿し木講習

この日、榎島博さんによる挿し木講習会を行いました。挿し木に使うノイバラを採取した後、荘原コミセンに会場を移し、挿し木にする作業を行いました。また、今回挿し木にしたバラを台木として、来年2月頃には、接ぎ木の講習会を行う予定です。このように、年間を通して季節ごとの良い時期に、実技講習会を開催しています。バラに興味がある方は、ぜひ荘原コミセンまでお問い合わせください。

昨年、荘原コミセンの玄関横に植えたつるバラもだんだんと大きくなってきました。来年あたりには、つるバラのアーチが見られるかもしれない……と心待ちにする日々です。



10/27
(日)

クリーン大作戦

出雲市環境保全連合会荘原支部

例年、10月の最終日曜日に行っている「クリーン大作戦」。出雲市の「18万人ポイ捨て一掃大作戦」の活動の一環として行っているもので、今年で11回目を迎えました。荘原の環境委員さんおよび斐川東中学校、荘原小学校へ参加のお願いをしたところ、80自治会中、59自治会に参加していただくことが出来、参加人数は385人でした(10月31日集計時点)。

各地域から寄せられたごみは荘原支部の環境役員が仕分けを行い、出雲市環境保全連合会に回収をしていただきました。

各地域でごみを回収する際に、次のような声も届けられています。

- ・夕日スポットとして無料で使用できるエリアに、食べたもののごみそのまま放置されていること
- ・田んぼや畑の中に頻繁にごみが放置され困っていること(この日見つかったのは、乾電池が入ったままの懐中電灯でした)

今後も、こうした活動を続けていく中で、ポイ捨てや不法投棄が、少しずつでも減っていくことを願ってやみません。



写真でたどるあの日の荘原

Vol.4

まちづくり部



▲昭和47年8月27日 撮影
荘原小学校前の陸羽村近を
西進するD51の雄姿

国鉄の幹線が電化され、蒸気機関車はローカル線専用で走り続けていたが、ついに京都鉄道博物館入りが決まって、昭和47年8月27日、引退記念D51四重連の特別運行となった。

真っ黒な煙、力強い音、今はローカル線にしか見られず、遠くは東京方面からもSLファンが殺到し、沿線はカメラの放列であった。

この年、7月には豪雨災害があって、荘原駅一帯も一面水没。宍道湖は、松江の市街を水没させ、荘原の東部を中心に浸水被害が広がった。



昭和50年、本州最後のSL・D51石州号のダイナミックなラストラン。米子～益田間192kmの山陰路を黒煙を噴き上げ力強く走った。沿線には、熱狂的なSLファンが詰めかけ、沿線住民も手を振って別れを惜しんだ。

運転された「デゴイチ」は二重連で、定刻に米子駅を発車し、車内は約600人の乗客で一杯。田畑や山合いに残る雪と黒い巨体とのコントラストに大喜び、機関車下部の白い蒸気と煙突からの黒煙。ポウーと鳴る汽笛。佳時が偲ばれる光景である。

◀昭和47年8月27日 撮影
荘原駅前の湯の川陸羽村近で撮影



サヨナラSL D51 石州号



サヨナラSL D51 石州号

▲昭和50年1月16日 撮影
荘原駅を西に向かい出発したSL・D51石州号

10月12日、13日に開催しました「荘原地区文化祭」をきっかけに今回の写真が見つかりました。

荘原コミュニティセンター「まちづくり部」では、引き続き当球から集めた荘原の写真などの歴史資料を募集しています。ご自宅に懐かしい写真などありましたら、荘原コミュニティセンターまでご持参ください。



Instagram 公式アカウントのご案内

荘原コミュニティセンター
Instagram公式アカウント
ができました！
コミセンで実施するイベ
ント等の情報を発信してい
ます。
是非皆さんでフォローください。



年末年始の利用について

荘原コミュニティセンター

12月28日(土)から1月6日(日)まで
一般業務、貸館業務はお休みします。

リサイクルステーション

12月28日(土)・29日(日)はご利用できません。

ご寄付御礼

香典返し 金一封

渡部 誠治様(新生本町自治会)

池田 進様(石川自治会)

本常 洋平様(北新町自治会)

皆様から寄せいただきました香典は、荘原地区内の社会福祉事業等に活用させていただきます。誠にありがとうございます。また、ご寄付は随時、荘原コミュニティセンターで受付しております。